

トンガ王国における SPMT の内科学的検診と啓発活動。

南太平洋医療隊 (SPMT) : 内野 和顕、 河村 サユリ、河村 康二

発展途上国の内科診療の中心は常に感染症診療であり、心血管疾患は重視されない。トンガでの死亡原因の約 50 %は心血管疾患および糖尿病と推定されるが、専門医が不在で血管造影装置もないため、本格的な治療は国内では不可能である。ところで心血管疾患発症には危険因子として高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病が関与しているので、生活習慣病管理による心血管疾患の発症予防が特に重要である。SPMT では検診時に血圧、血糖、BMI を測定すると共に、生活習慣病予防に関する知識普及を行っている。特に糖尿病は動脈硬化を促進するだけでなく、歯周病の発症、進展に深く関与するので SPMT としては重要と考えている。

検診結果からトンガにおいては多数の高血圧、耐糖能異常が存在し、かつ未治療なことが判明した。治療の前提としての生活習慣の修正が必要である。肥満症については BMI 25 以上を肥満とする日本基準、30 以上の WHO 基準の適用では、トンガ人のほとんどが肥満となるので、ニュージーランドで使用されている 32 以上を肥満とするマオリ族基準値をトンガ人用基準値とすべきだと考えられた。

トンガの人々の体格

	身長 (cm)	体重 (kg)	BMI
男性	175	108.9	36.6
女性	163.6	95.7	36.4

トンガ検診者における高血圧の割合

年齢	トンガ	日本
～ 29歳	20.8 %	3.9 %
30歳 ～ 39歳	36.0 %	11.8 %
40歳 ～ 49歳	60.7 %	24.9 %
50歳 ～	66.7 %	49.2 %

トンガ検診者における耐糖能以上の割合

年齢	トンガ	日本
～ 29歳	0%	2.5%
30歳 ～ 39歳	4.2%	4.5%
40歳 ～ 49歳	10.3%	7.0%
50歳 ～	16.7%	10.7%